

まちづくりの基本目標

施策の柱となる

四つの構想

市民と行政とが共に築く「協働のまちづくり」を基本に据え、施策の柱となる四つの構想を設定しました。

生きがい定住都市構想

生涯、充実して暮らせるため、出産・保育・教育・就労・老後に至るライフサイクルに対して、自立と生きがいを支援する体制を整え、関係機関との連携を深めます。



▲子宝祝金支給認定式

- 豊かな緑と清流を守る
- 資源が循環するまちをつくる

を目指す

- 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる

- 生涯にわたって学び、生かす機会をつくる

- 医・食・住の充実と高齢者や障がいのある人の自立を支援する

- ふるさとで働ける場を増やす

やすらぎの郷構想

南丹市は、「面積の九割近くを森林が占めており、京都府を代表する二つの河川（由良川・桂川）の源流域にあたるなど、豊かな自然に恵まれ、温かい人情と落ち着いた佇まいが残り、豊富な観光資源があります。

今後は、このような環境を生かしながら、笑顔に包まれた暮らしを守り、また、やすらぎを求める来訪者にも「ふるさと」を提供していきます。



▲美山・かやぶきの里

る

- 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる

- ひとを温かく迎える

- 伝統文化を継承する

- 温泉を活かす

- 暮らしの安全と安心を守る

きずなと交流のネットワーク構想

南丹市は、高速道路や鉄道などの広域交通網が充実していますが、南北・東西ともに広く、移動には時間がかかります。

今後は、さらに高速道路や鉄道の利便性を高めるとともに、市内の主要道路やバスなどの地域交通ネットワークを整備し、人が集い、行き交う

まちをつくりまします。また、地域と世界をつなぎ、双方向のやり取りができる情報環境をつくるため、情報基盤の整備と、その活用の充実を進めます。

- 高速移動の網を広げる

- 鉄道をさらに便利にする

- 安全で快適な主要道路でつなぐ

- 誰もが安心な地域交通システムをつくる

- 双方方向の情報通信基盤をつくる

- にぎわいの市街地をつくる



▲複線化間近なJR嵯峨野線

によるまちづくりを進めます。このため、地域のことは地域で取り組むコミュニティづくりや、まちの多様な担い手の育成、情報公開や参加機会の充実、住民や地域が得意なことを担いつつ、より効率化を図る行政運営を進めます。

- 共に生きるまちづくりを進める

- 住民自治の地域づくりを進める

- 多様な担い手のパートナーシップを育てる

- 大学等と連携し、ともにまちをつくる

- 未来を担う人づくりを進める

- 行財政改革を推進する



▲荒岩稻荷神社こどもみこし

きらめきパートナーシップ構想

共に考え共に取り組む市民と行政とのパートナーシップ